

## 【概況】

●30日、米商務省が朝方発表した7月の個人消費支出(PCE)物価指数は、総合が前年同月比2.5%上昇、価格変動が激しい項目を除いたコアが2.6%上昇。そろって市場予想を小幅に下回り、インフレの落ち着きを示す内容だった。ただ、伸び率は前月から変わらずの水準となったため、9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ幅は0.25%にとどまるとの見方が拡大。エネルギー需要の押し上げ効果は限られるとの思惑から、売り優勢の展開となり相場は73.55ドルへ下落した。

●2日、レーバーデーのため休場。

●3日、中国国家统计局が8月31日発表した8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.1と、前月か0.3ポイント悪化。景気の拡大・縮小を判断する節目の50割れは4カ月連続。中国メディアの財新と米S&Pグローバルが今月2日発表した8月の中国製造業PMIで、外需の強さを示す新規輸出受注は50を割り込んだ。一連の指標で世界最大の石油輸入国である中国の景気先行き不安が強まり、需要減速懸念が相場を圧迫。投資家のリスク回避姿勢を反映した米欧株安も原油売りにつながり、相場は70.34ドルへ大幅続落した。また、東西に分裂状態にあるリビアで、中央銀行人事を巡る双方の「政権」の対立に伴い、国内の大半の油田が閉鎖されているが、国連の仲裁による協議が進展する兆しが出ている。石油生産停止への過度の懸念が後退したため、相場の下押し要因となったもよう。

●4日、週初までに発表された中国と米国の一連の製造業購買担当者景況指数(PMI)が総じて低調な内容となったため、世界的景気先行き懸念が再燃。世界最大の石油輸入国である中国と米国のエネルギー需要の減速懸念が強まる中、この日も原油売りが活発化。安値拾いの買いによる戻りは弱く、取引終盤に下げ足を速め、一時68ドル台まで下落した。リビアの石油輸出停止の原因となっている中央銀行総裁人事を巡る内政問題が早期に解決する可能性が浮上、供給停滞が長期化すると懸念が後退したことも相場を下押しし69.20ドルへ続落した。

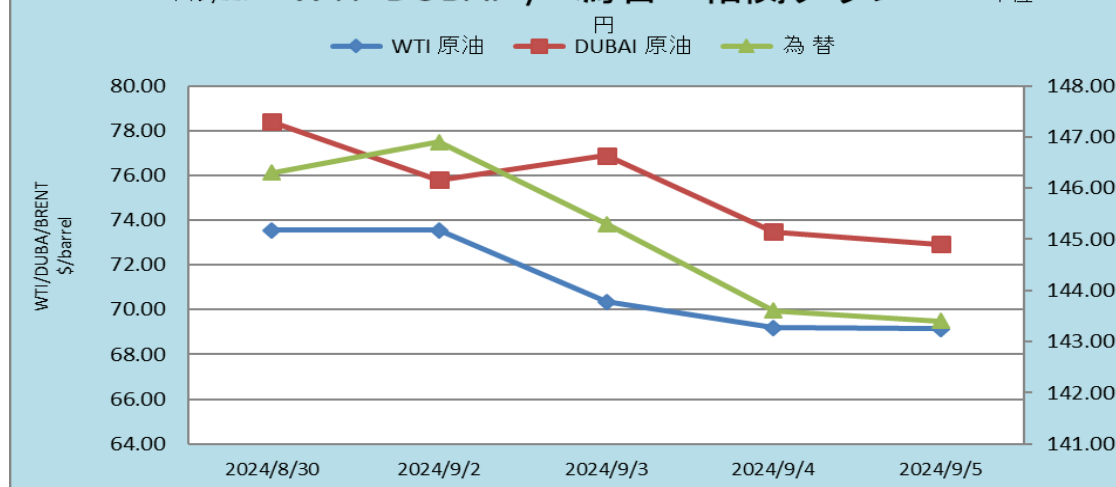
●5日、石油輸出国機構(OPEC)はこの日開催のオンライン会合で、当初10月からとしていた実質的な増産を2カ月遅らせ、12月に開始することで合意。下落基調にある相場を下支えする姿勢が示されたことを受け、朝方は買い戻しが優勢となった。また、米原油在庫の大幅な落ち込みを示す官民の週報も強材料。週初の祝日休場に伴い、1日遅れの発表となった8月30日までの週の同統計は、米石油協会(API)が740万バレル減、米エネルギー情報局(EIA)が690万バレル減となり、ともに事前予想の100万バレル減を大きく上回る取り崩しを記録した。しかしながら、原油先物相場は根強い需要減退懸念に押され、69.15ドルへ4営業日続落した。

9月6日 | 16:00現在 | WTI原油 | 69.48ドル | 為替 1ドル | 144.24円

国内石油製品在庫 8月31日時点 単位:万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 単位



	次回元売変動予測	
	9/12~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.4~+0.1
灯油	→	-0.4~+0.1
軽油	→	-0.4~+0.1
A重油	→	-0.4~+0.1
LSA	→	-0.4~+0.1

## 【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+1.0円」、補助金は、「-16.4円・60%」、都合「+1.2円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの2日時点の小売価格平均は174.4円となった。

《9月12日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「-3.5円~-4.0円」、激変緩和補助金は「-12.8円・60%」の見込みで、都合「+0.1円~-0.4円」の改定予測となっている。

※原油コスト「-3.5円~-4.0円」  
 ※激変緩和補助金「-12.8円」前週比+3.6円  
 ※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】 < “アルミくず”から水素を製造！コストはほぼかからない革命的発明 >

クリーンエネルギーの代表格「水素」。燃やしても水と酸素しか出ないクリーンエネルギーの大本命として、日本はもとより世界中の国が開発競争にしのぎを削っている。

水に電流を流すと発生する水素。地球上にほぼ無尽蔵にありながら、“完全無公害”という夢のエネルギーである。燃料電池に使用すれば発電し、電気自動車などの動力源になる。燃えやすいため、天然ガスのような燃料にもなり、すでにロケットの打ち上げにも使用されている。

富山県高岡市のベンチャー企業「アルハイテック」は、持ち運びができる水素製造装置で、世界から注目を集めている。水素を作る原料は、工場から出る“アルミくず”。この技術のカギとなる「ある特殊な溶液」にアルミのくずを入れるだけ。実験の様子を見ると、細かい泡、煙がブクブクと出て、水素が発生。それを試験管の中に溜めて火をつけると、ポンと音がした。

アルミと溶液の化学反応だけで、驚くほど簡単に水素が発生。少し大きな実験装置でも、タンクにアルミくずを入れるだけで、水素が作られていた。二酸化炭素などの排出はゼロ。余分なものは全く出ず、電気など外からのエネルギーも必要ない。

例えば、ゴミとして出た廃アルミ9キロ。相場だと450円ですが、ここから水素が1キロ取れる。水素ステーションなどで買うと1,200円ほどになる量である。これを使って発電を行うと、電気自動車が180キロ走れるだけの電気が取り出せる。

さらに、副産物として建材などに使われる水酸化アルミが26キロ生成される。これは約8,000円で売れるとのこと。コストはほぼかからず、エネルギーと副産物が手に入るシステムといえる。